

言葉の森\* ②

北星学園大学 経済学部

増田辰良

2022年10月26日 NO. 22

〒004-8631

札幌市厚別区大谷地

西2丁目3番1号

北星学園大学 経済学部

メール・アドレス: [masuda@hokusei.ac.jp](mailto:masuda@hokusei.ac.jp)

\*このワーキングペーパーは、著者個人の責任において書かれたものであり、北星学園大学は、発行管理のみを行っています。

## 目次

はじめに

言葉の森 ②

## はじめに

日本語を書くときの語順について考えてみる。

こんな文章があつたとしよう。

「向こうから背中に大きなバッグを背負った男がやってくる。」

この日本語の並べ方は正しいのか？

話し言葉であれば、許されるかもしれない。しかし書き言葉であれば、正しくない、許されない。これはこう書くべきである。

「向こうから男が背中に大きなバッグを背負ってやってくる。」

なにを言いたいのか。この文章は視覚した光景を表現している。なので、まず目に入るのは男の姿であり、次に背中のバッグである。選ばれる日本語の順番はそんな役割をしている。

また句読点をどこに打つか、どこで改行するか、によって日本語の響きは違ってくる。その響きの違いは書き手に次に並べる日本語を選ばせる。ようするに日本語の並べ方は文体の一部を構成しているのである。

文章の主題や筋を追いかけられるだけの読書ではなく、言葉そのものを味わう姿勢で読書をする者は前者の文体を許さない。なので、書き手は安易に書き流してはいけないし、読み手も安易に読み流してはいけない。こんな小言臭い作文法に拘るのは、いわゆる純文学志向の書き手たち、読み手たちである。

もちろん拙稿が対象とするショートショートにおいても文体は大切である。しかしこれが画一的ではなく、書き手によって幾通りかに分類できる。

最後の数行でモチーフが逆転する、いわゆるオチのあるもの。オチらしきものはなくて、むしろ掌編小説か幻想小説かというもの。さらにショートショートと呼ぶよりもSFそのもの。これにホラーもの、ミステリーものまである（大雑把に分類すると、ホラーとは恐怖とハラハラドキドキ感を楽しむもの。ミステリーは主に謎解きを楽しむもの）。

筆者が「うまい」と呼びたいショートショートは、最後に裏切られたようなショックを与えてくれるオチのあるものだ。が、こうした「技」は短篇小説にも長編小説にも形を変えて使われている場合が多々ある。どんな物語も筋をおもしろく展開しようと思えば、起承転結ではだめで、起承転結転結という構成にせざるをえないからである。

一例として、実存主義哲学者であつたサルトルの『壁』をみてみる。テーマは政治闘争であるが、小説としてのおもしろみが存分に描かれている。

ファシストに捕らえられた抵抗者が壁の中に幽閉されている。明日にも死刑をすると宣告される。ただし、逃亡中の指導者の居所を白状すれば、命は助けてやる、と迫られる。逡巡した後、彼はいいかげんな居所を公言する。ところが、偶然にもそれが的中し、指導者は捕らわれてしまう。小説の最後は狂的な笑いで終わる。この終わり方はショート・

なので、読み手によればショート・ショートにもなりうる。がしかし、本来のショートショートは短い（字数が少ない）分だけ、ショックを与え易い。そこに比較優位がある。オチという文

体を楽しみたい。

## 言葉の森 ②

### 寿命の相続

老人は臨終の床にいた。

「この人生、すべきこと、やらなければならぬことはすべて全うした、有意義な人生だったあ。もう、この世には未練のかけらもない」

この世の見納め、と両目を見開きぐるりと天井を見回してから、足元に目を遣った。そこには頭が長く白いもじやもじや髯を垂らした仙人が胡坐をかいていた。

老人はびつくりして声をかけた。

「あんたはどこの誰だ。なぜ、ここにいる？」

仙人は顔の皺を妙に歪めて、答えた。

「わたしは寿老人だよ」

「寿老人？」

「そう。人間に健康、長寿、病氣平癒を授けることのできる寿老人。七福神の一神だ。よほどのことがない限り、姿は見せない」

「その寿老人がなぜ私の足元にいるのか？」老人は訝る声音で訊き返した。

寿老人は目尻を下げて、優しい声でゆつくりと答えた。

「あんたはまだ死なない。死ななくてよい。いや、死ねない、と言ったほうが正しい」

老人は訳が分からず、さらに懇願するよう言った。

「自分はもうこの世には未練はない。やるべきことはやった。すべきことはすべて全とうしてきた。自分でも納得できるいい人生だった。だから、もうあの世へ行ってもいいんだ。行きたいんだあ。行かせてくれ」

聞き終わると、寿老人は「ふっふっふっ」と笑って、答えた。

「あんたは、これまでに多くの人たちのために金品や時間を惜しまず捧げてきた。あんたのお陰でどれほど多くの人たちが助けられたことか。八百万の神を代表してお礼を申し上げたいくらいだ」

言い終わると、寿老人はとびつきり優しい笑みを浮かべた。

それを聞いて老人はこれまでの人生を想い返した。確かに、多くの人たちを助けてきた。それは金や物の援助だけでなく直接、力も貸してきた。そのたびに、多くの人たちからは感謝もされてきた。ただし、見返りなどは一切受け取ることはなかった。欲しいとも思わなかった。ただただ他人のために奉仕してきた。それが人の道というものだ。

老人は天井の一点を見つめ、独り言を漏らした。

「すんだことだ。他人への功德も過去のこと……。もうどうでもいい。後はあの世へ行くのみ」  
すると、寿老人はその言葉を遮った。

「その功德は時間に換算され、その分だけ、生きる時間を貯めてきたのじゃよ。そう、あんたはこれまで知らず知らずのうちに生きる貯時間ちよじかんに励んできたのじゃ」

「時間を貯める？ 貯時間？」

「そう。この時間は貯時間銀行で管理している。私は、その代表取締役をしている。だから、あんたはこの貯めた時間を使い切るまではどうしたって生きられるのじゃよ。早い話が寿命が伸びるということだ。それを伝えるために、私はこうしてあんたの前に姿を現したのじゃよ」

この言葉を聞き終えると、老人は声を荒げた。

「さつきも言ったとおり、自分はもうこの世に未練はない！ 生きていたくもない！」

それを制するよう、今度は寿老人が声を荒げた。

「それはできない！ 貯めた時間は使い切ってもらわないと、相続上の問題が……」

老人は思わず枕から首を上げ、詰問する口調で訊いた。

「えっ？ 私が貯めた生きる時間を誰かに譲ることができるのか？」

寿老人はしやうがない、という顔で答えた。

「しやうと思えば、誰かに譲ることもできるし、遺産として残すこともできる。受け継いだ者はいやがうえにも寿命が伸びる。どちらにしろ、身内に譲り、残すことが手続きは簡単じゃ……。」  
と、いうことで私は父親が残した貯時間を相続しました。

こう陳述し終わると、被告人の若い男は背筋を伸ばして、まっすぐ正面を見た。

検察官 裁判長！

裁判長 はい、検察官。

検察官 今の被告の話は、子供でも知っている貯時間のことです。被告は父親から受け継いだこの時間を使って寿命を伸ばそうとしています。反省の姿勢が全く感じられない。

弁護士 裁判長！

裁判長 はい、弁護士。

弁護士 貯時間を使うことは法的に認められた当然の権利です。被告は父親から全ての遺産を相続し、確かに貯時間も受け継いでいます。手続き上、特別な法的問題はありませぬ。

検察官 裁判長！

裁判長 はい、検察官。

検察官 確かに、貯時間を使うことは可能です。莫大な金銭も相続したようです。しかし、被告はそれを頼りに、働きもせず、父親が残した遺産金を使い尽くすと、無銭飲食、万引き、空き

巣などの犯罪を繰り返し、見つければ、罪のない市民を惨殺するという非道を犯しました。ま

ずはこれまでの放蕩三昧ほうとうさんまいな生活を反省し、延命の可能性を残してくれた今は亡き父親にも感謝の気持ちを申し述べるべきだと考えます。被告は自分の罪を父親が貯めてきた貯時間で相殺しようとしています。これは罪を免れようとする意思の現れにほかなりませぬ。到底、許せませぬ。どうか死刑に処していただきたい。死をもって償うべきです。

裁判官 弁護士へ。何か申し述べたいことはありますか？

弁護人 はい！ 裁判官！ どうか、父親の七光りのうちの一光りでも被告人に与えてやっていただきたい。更生する機会をぜひ与えてやってください。極刑だけは回避してやっていただきたい。

それから2時間後、裁判官は判決を下した。

裁判長 被告人 すねかじりぶうたろう 脛齧 風太郎を死刑に処す。

この声が耳に届くと、被告は頭を大きくグラリと垂れた。

裁判長 「主文 本件は少子社会により、父親の過保護の下で、育てられた者による放蕩三昧殺人事件である。父親が富裕であるが故の被告人の心の弱さ、自己中心的な性格もそうした過保護の下において、形成されたと推察する。一方、被告の父親は生前、他人に対する功德心に篤く、多数の人たちを金銭のみならず、物心を惜しまず、奉仕してきたことも極めて重要な事実である。それがいかほど大きかったかは計り知れないほど貯めた貯時間数をみれば明白である。この貯時間の恩恵は本来、預け人の寿命を伸ばすということから、預け人本人へ還元されるべきである。がしかし、その預け人がこの世にはおらず、この貯時間が相続の対象である限り、被告はこれを受け継ぐ法的権利を有している。したがって、被告がこれを行使したいと申し述べている限りにおいて、法の番人である裁判所もこれを認めざるをえない。しかし、被告が受け継いだ貯時間の利用申請期限はその時間数からして相続日から10年であった。被告はこの期限のあることを承知で相続原簿に署名と押印をしたはず。当裁判所が貯時間銀行の帳簿より精査したところ、この期限は逮捕時には満期を過ぎ、すでに無効となっている。よって、死刑をもって償うべきだと判決する」

読み終えると、裁判長は哀れみの滲んだ声を被告に向けた。

裁判官 被告人へ。この判決内容についてどう思いますか？

被告人 満期なら利息としての余分な寿命を……。 (泣) クッククック。

裁判官 ……？ これをもって閉廷する。

**違い、判るかな？**

あの店が出すラーメンは辛いという噂は本当であった。  
食べるにはさすがに辛い。

**店主の趣味**

男はバッグから分厚い古本を取り出し、カウンターの老店主に手渡した。

「この3冊なんです、引き取ってもらえませんか？ 今では入手困難なものですが」  
定価の総額が2万5000円ほどの専門書であった。

老店主が値踏みをしている間、男は文芸欄に詰まった古本を適当に手に取り、発売時の値段と老店主がつけた値段とを比べていた。

「この本にこの値段がつくのか。買う人なんているのか？」

口の中で呟いていた。

「お客さん！」

「ああ。はい！」

男は慌ててカウンターへ歩み寄った。

老店主は胡散臭うまんとくばそうな目をして言った。

「お客さん。蔵書印を押してありますね」

「はい。修正液できれいに消しましたが」

「これじゃ、うち来る客には手にとってもらえません。売れません。なので、引取れません」  
そう言つて老店主は古本をカウンターの先に置いた。

「ああ。そうですか。分かりました」

男は3冊の本をバッグに入れ、そそくさと店を出た。

「クソ。売れないかあ。蔵書印なんか押すんじゃないか。きれいに消したんだが。クソ」

一週間後、男はその3冊を別の古本屋へ持ち込んだ。

「蔵書印を修正液で消した跡が残っているのですが」

男はそう説明してからカウンターへ置いた。

「はい。しばらくお待ちください」

店主はペラペラと捲つて、書き込みや破れていないかどうかを確認した。それからPCで何かを検索していた。古書の流通価格を調べたのであろう。

男はここでも引き取ってくれないのかなと不安になった。しばらくすると、3冊を手にした店主が声をかけてきた。

「合計で5500円になりますが、よろしいでしょうか？」

男は思わず、「助かります。ありがとうございます」と言つて、領収書に住所、氏名、年齢、職業を記入し、身分証明書として運転免許証を提示した。

受け取った現金を財布に仕舞いながら、男は尋ねてみた。

「南6条西4丁目の××堂では引き取ってくれませんでしたか……」  
すると店主は目元を緩めて教えてくれた。

「あそこの老店主は珍しい蔵書印のある古書を収集する趣味を持っているようですよ」

男は納得できた。

### 釣った魚は逃がさない

「飲み屋の親仁おやじつて、客の顔を覚えているかな？」

「どうしたの？」

「先日、初めて入った飲み屋で勘定を間違えられてさ」

「ボラレタのか？」

「いや、逆でこっちがボッタことになる」

「なに？ 客がボッタクッタあ。酒や料理に因縁をつけたのかよ」

「いや。親仁が俺に返す金額を間違えて多めに釣銭をもらったんだ」

「へっつ。そんなこともあるんだあ。どれだけもらったの？」

「およそ3000円ほどの飲み食いをして、5000円を出したのに7000いくらの釣りを受け取ったんだ」

「おい、それ確か？」

「うん。あの日、財布に1万5000円あるのを確認してから店に入ったから。初めて入る店だとそうするだろ」

「そうだな。でその場で気がつかなかったのかよ」

「完璧に気がつかなかった。5000円札と1万円札ってよく似ているから」

「そんなに飲んでいたのか？」

「いや、初めて入った店なのでボラレルのも嫌だから晩酌程度だよ。でも俺の限度をオーバーしていたかもしれない」

「そっかあ」

「で家に帰ってレシートを見て、財布から小銭を貯金箱へ入れようとして、気づいたのさ。初めての店だし、もう閉店時間も過ぎていて……」

「気にすることない。もらつとけよ。水商売だから、稼げるときもあれば、損をするときもある。

潮の満ち引きと同じだ。親仁は自分の失敗を百も承知しているさ。お前はビギナーズ・ラックだと思えばいい」

「そう言ってもなあ、なんとなく気色悪くてさ。小さな飲み屋で経営も大変だろう。そのうえ釣銭の間違いをしてりやあ」

「そこまで言うなら、次も飲みに行つてあげて、少し稼がせてやればいいだろ」

「でも、親仁が俺の顔を覚えていてあんた先日多めに釣りを受け取つただろ。返せ！<sup>すこ</sup>って凄まじりしないかな」

「そのときは知らぬ存ぜぬで押し通せばいいだろ。向こうに落ち度があつたんだし。それにいちいち客の顔を覚えていないって。心配するな」

「じゃ、また行つてみるよ」

――俺は友人のアドバイスどおり、再び客となり酒、肴を前回よりもたくさん注文した。親仁の俺への接客態度に特別な雰囲気は感じなかった。俺としては贅沢な酒盛りで、ひどい酩酊状態になった。閉店30分前にレジで清算し、店を出た。

「ありがとうございました！ またお越しください！」親仁の明るい声を背中に聞いた。

なんとか前回の借りを返せた気分心地良かった。

帰宅後、いつものようにレシートを見てから、財布の小銭を貯金箱に入れようとして、俺は思わず叫んだ。「潮の大引きだ！」9000円ほどボラれていた。

## インフルエンサー

インフルエンザの流行端緒患者かと思つたが。

## 大晦日

「大晦日、最後のお蕎麦<sup>そば</sup>を一緒に食べましょう」と彼女からいつもより丁寧なメールが届いた。彼女には一週間前に、プロポーズしたばかりでその返事をまだもらっていない。蕎麦屋へと急ぐ俺は雲の上を歩いているようなフワフワした気分であった。ようやく待ちに待った結婚への承諾をもらえるものと確信していた。彼女との楽しかった日々が走馬灯のように去来した。

「それにしても煩惱を払う除夜の鐘を聞きながらプロポーズへの返事をもらえるなんて超サプラ

イズだな」と、ほくそ笑んだ。なぜなら、いくら能転気な俺でも年越し蕎麦には長寿を願うことと、未永く付き合っ行って行くという意味のあることぐらいは知っていたから。独身最後の蕎麦。ズルズルと啜るその味はこれまでになく格別であった。

近くの寺で撞き始めた除夜の鐘も聞こえてきた。

食べ終わると、彼女は膝に両手を置き、姿勢を正して少し怖そうな顔付きで俺の目を直視した。俺もそれに応えて真剣な目で彼女を見つめ返した。心の中では歓喜の雄叫びをあげていた。

「いよいよだあ。くるぞー」

思わず、にやけそうになる顔をすっかり強張らせた。1秒、2秒と間があく。緊張で心臓がバクバクと音を立っているのがわかる。これ以上待つと、破裂しそうだ。

彼女はグッと固く握った両拳をテーブルの上に出し、静かに思い切るよう口を開いた。

「わたしたち今日、今夜限りで別れましょう。このお蕎麦のように」

それだけ言っって彼女は俺から目を逸らした。

俺の脳ミソの思考回路は一瞬にしてショートしてしまった。目の前が真つ暗闇になり、時間が止まった。それでも俺は何とか自力で復旧し、うろたえまくった声で訊いた。

「ウウツ嘘だろ？ ジョジョ冗談だろ？ ココ今夜で……、ナナツ何故、蕎麦なんだあ？」

冷やかな言葉が返ってきた。

「年越し蕎麦は切れやすいので、この1年の苦難、災難、借金など、すべてを切り捨てるという意味があるわ」

俺はアホのようにポカンと開けた口を閉じれないまま心の中で猛省した。

「そんな意味もあったのかあ？」

リズムよく鳴り続ける除夜の鐘は鳴るたびに静寂しきった空気を震わせた。

その鐘を数回、聞き流した後、彼女は「さ・よ・お・な・ら」と唇だけを動かし立ち上がろうとした。

俺は怒気を込めて「ちよつと待ってくれよ」と制した。

彼女は椅子に腰を下ろした。

その目を見て俺は自嘲気味に口元を緩め、訊き返した。

「じゃあ、いま聴こえている除夜の鐘は何なんだあ。ゆく年を送り、来る年を迎えるために撞いているんだろ。俺たちのために」

すると、また俺の理解を超えた答えが返ってきた。

「いいえ。あれは凡庸な男を追い払っているの」

ポ〜ン。ポ〜ン。

### 出社拒否

冬の朝。東の窓から陽光が射し込む部屋へ母親が入ってくる。窓側に置かれたベッドの上には頭から布団を被って息子が寝ている。

母親は「ほんとにもう」と舌打ちしてから、声をかけた。

「いつまで寝てるの。早く起きて、朝ご飯を食べないと遅刻するわよ！」



息子はくぐもった声で答える。

「行きたくない。皆が僕のことをイジメルから行きたくないよ」

「ああ。また、それ。今度はどんなふうにイジメられるの？」

と、母親はしようがないという口ぶりで返した。

「うん。昨日の会議で僕が売上や利益について説明すると、なぜそんなに数値が小さいんだ。もつと業績を上げろーって、罵声を浴びせてきたんだから。もう嫌だよ」

「当然でしょ。お仕事だもの。業績は大切でしょ」と母親は論ず。

「それだけじゃない。社内の飲み会だって、いつも僕だけ割り勘じゃなくて、後輩たちの分を多く出させられるんだよ。出すことを期待されてんだから。イジメだよ」

そう言う息子はガタガタとふるえだした。

「毎日毎日、飲み会をしてるわけじゃないでしょ」

母親は息子の肩を布団<sup>ふだん</sup>ごしに優しくなでた。

「お母さんは専業主婦だから、僕がいくら言っても解らないでしょ」

「そんなことないですよ。あなたにはいつも感謝してますよ」

と母親は優しく応える。

「解ってないよ。解るわけない。最近じゃあ、食堂へ行っても、皆、疎ましい<sup>うと</sup>目で見て僕を避けるんだ。だからいつもお昼ご飯は1人で食べてるんだよ。もう耐えられないよ。今日は、絶対に行きたくない」

「それは避けてるんじゃないよ、きつと気を遣ってくれてるのよ。心配することないから」

「ああ。お母さんはやっぱり解ってないよ。そんな目じゃないもの。嫌だ、嫌だよ」

堪忍袋の緒が切れた母親は、

「いつまでそんなバカなことを言ってるの！」

と怒鳴った後で、思い切り布団をひっぺがした。

「寒いよう。今日は行きたくないよ。行かないよ」と息子は身体を丸めて哀しい声を発するばかり。

その頭へ母親は顔を近づけ促します。

「たびたび無断欠勤をしてどうするの？ 会社を解雇<sup>くび</sup>になるわよ。休むなら今日は自分で電話連絡しなさい」

それでもなお息子は、今にも泣き出しそうな声で叫んだ。

「そんなに言うのなら、じゃあ、僕が嫌な思いをしてまで会社へ行かなきゃならない合理的な理由を聞かせてよ！」

呆れたという表情をして母親は息子の耳へ口を寄せ、しだいに大きくなる声を吹き込んだ。

「合理的理由ねえ。そんなの簡単よ。あなたは後2年で定年退職でしょ。それに部長でしょうが！！」

### 笑いを取る

まだ修行中の落語家が始めて前座をつとめた。緊張のあまり身体も声も奇妙に震えている。前座だということでも多くの客は興味深い目付きをして「まくら」を聞いていた。がしだいに舞台と客席は睨めっこの様相を呈してきた。

本題に入るころには場内はざわつき、トイレへ立つ客、弁当を食べる客、ウトウトする客が目

立つようになった。「あくあ」と大きく欠伸を連発する客もいた。

その眠気を払おうと数人の客が怒鳴った。

「面白くないぞ！ もっと稽古をしてから出て来い！ 木戸銭を返せ！」

怒声はやまびこのごとく響き渡り、まるでロックバンドのライブハウスにいるようであった。

落語家の顔からは色が消え失せ、誰の目にも懸命に耐えていることが見てとれた。

突然、前方の席に座る一人の客を指さして、叫んだ。

「そのあなたねえ。そんなにつまらないのなら、ここへ上がって来て、嘶をしてみてください。」

他人を笑わせることがどれだけ大変なことか分かりますよ。これでも一生懸命、稽古して舞台に

上がってるんです。(泣)クッククック

指をさされた客は、ニタニタ笑い、

「バカ野郎！ 逆ギレかあ。何を、泣いてるんだ！ この下手糞！ こっちは金を払って聞いて

てやってんだあ。嘶の落ちをつけてみる！」

と返した。

しかし、落語家は首を垂れ一点を見据えたままだった。客がまた冷やかした。

「どうした？ 落ち、落ちだよ」

「……」

「落ちをつけてみる！」

今度は語気を強めた。

すると落語家は顔を上げ涼しい目をして口を開いた。

「はい。お後がよろしいようで」と頭を下げた。

「頭を下げてもだめだ！ バカヤロウ！」先ほどの客が呆れたという顔で大きな声をかけた。

「では、今日は座布団を提げて引っ込みます」

その瞬間、場内には爆笑とともに、ものすごい拍手が巻き起こった。

### 気遣い？

妻 私が悪いのね。もうー、いつも、いつも私の所為にしてー。出て行けばいいんでしょ！！

夫 そうだ。

妻 じゃあ、出て行きますよ(バッグを手に玄関へ向う)。

夫 傘、持って行け。雨、降っているぞ。

### 孫の手

朝、3歳になる娘の麻子まこを祖父母に預けた。麻子はおしゃま盛りである。

歳を重ねても亭主関白なままの祖父が「お茶をくれ！」と祖母に声をかけると、麻子は祖母に代わりそろりそろりと湯呑みを祖父に届ける。

すると、その仕草が可愛くて、祖父は目尻を下げて褒めます。

「麻子ちゃん。えらいねえ。よくできたねえ」

次に、祖父が

「昨日まであったボールペンが見あたらない」

と祖母にこぼすと、麻子はテレビの台の上にあるボールペンを見つけて届けます。

「よく見つけたね。麻子ちゃん。おりこうさんだねえ」

と祖父は頭を優しく撫でる。

タバコを吸おうとすると、どこかから灰皿を持ってきます。

その後も祖父が「新聞を取ってくれ」とか「メガネをどこかへ置き忘れたから探してくれ」と、色々祖母に命じると、そのたびに、麻子ちゃんは見つけてニコニコしながら届けます。

祖母が昼食の用意をしようとする、テーブルを拭き、食器棚から箸、お茶碗などを取り出してテーブルへ並べるお手伝いをします。いつもと違い祖父の顔はほころび放しです。

夕方、娘を迎えに行くと、父親に感謝された。

「誰に似たのか、麻子は痒いところに手の届く児だねえ。歳の割にはほんとよく気がつく児だよ。

「感心、感心」

私はすかさず答えた。

「我儘なお父さんにとっては文字どおり、孫の手でしょ」

### モニター募集

おいしい赤汁（赤トマト、赤ピーマン、赤トウガラシ、赤カブ、赤リンゴのエキス配合）。

脂肪の吸収を抑えます、

糖分の吸収をおだやかにします、

お腹の調子を整えます。

今なら一日あたり64円で試せる20日分のモニター募集。

こんな方にオススメです。

定価で購入したくない方、

まだ、暴飲暴食をしたい方、

お目出度い赤色が大好きな方。

### 比較

― 新聞広告。

あなたの大切なパートナー、ペットの保険登場！

「月々700円で通院・入院・手術を補償。補償は一生涯。インターネットで申し込みなら、さらに10%OFF」

夫が妻に確認した。

「俺の生命保険と比べて補償条件はどうなんだ？」

### ソウル

「あんかけ焼そば」は〇〇市民にとってソウルフード (soul food) と言われているそう。

〇〇市で韓国 (seoul) 首都 ( ) の郷土料理フェアをしているのかな？

### 正しい日本語は？

昨夜、TVでコント番組を観たか？  
ああ、観たよ。

すつげえ〜、おもしろかったよな。  
うん。おもしろかった。

家には誰もいなかったたので、爆笑したよ。  
それって、あえて言えば独笑でしょ。

(爆笑とは大ぜいの人が一度にどつと笑うこと。)

仕事でミスをした。上司に叱られた。

どこが悪かったのか、良く考えなさい。

(ミスをいい方に解釈しろ、つてことか?)

### きれいすぎるのも……

工場や家庭から出て海に入る排水には汚染物質の栄養塩(窒素、リン)が含まれ、赤潮の原因となる。そこで長年、排水規制をしてきた。すると(栄養素が不足して)、海苔のりが育たなくなった。

(付記。これは実話です)。

### 記憶の距離

―カムだけで記憶が維持できるチューインガムがあるらしい。そのキャッチコピー。

「一昨日の朝ご飯は何でしたか？」

一昨日!? 今朝のご飯すら思い出せません。

### 近未来におけるお見送り

―人手不足の介護現場。

主力となったA Iロボットから、「もうそろそろ旅立ちを」と促される。

### 忘却とは

いいアイデアが浮かんで、夜中に眼が覚めた。ふっふっふっ。トイレをすませ再び、布団に入ると、忘れてしまった。水とともに去りぬ。

### 賛否

― 会議場。

議長が議案の提案説明をしている。議場のいたる所から怒声が起こった。

異議あり!

意義あり!

さあ、どっち。

### 発音したい

イギリスを列車で旅行した。荷物の運搬を赤帽に頼んだ。しかし、その作業が遅い。シャレで、

Harry Porter (ハリーポッター)

と叫んでみた。(正解。Hurry Porter. ハリーポーター)

― 優先席。  
声をかけよう

おゆずりください。この席を必要としているお客様がいます。

お年寄り、

体の不自由な方、

乳幼児をお連れの方、

妊娠されている方、

+

自殺を考えている方。

者は褒めよう

月謝を取って、教える民謡教室。師匠には民謡歌手を育てる気持ちはなくても、習うほうにはみんな自惚れがあります。上手におだてないと離れていきます。離れられては師匠も食いつぐれます。そこで各人各様におだてます。

声のいい人は褒めやすい。

「あなたは声がいい。なんとと言っても声のいい人には勝てません。声がいい……」  
すると生徒さんは「私は声がいい……」と勘違いする。

声の悪い人には声がいいと言えば本人もちよつと疑います。そこで、

「あなたは節回しがしつかりしている。声のいい人よりも悪いところを節回しで工夫しようというそこから名人にもなれます。あなたは節回しがいい……」

と褒めます。

節回しもよくない人には、「あなたは詞ことばがしつかりしている……」と褒める。

生徒さんは、「なるほど、私は詞がしつかりしている」と納得する。

声も節回しも詞も良くない人へは、「あなたは長くここへ通ってくるだけ辛抱できるところが偉い」と褒めちぎります。

さて、生徒さんはどんな感想を持つことやら。

〇〇学部△△学科 性別 男

農学部 獣医学科 草食系男子

繊維学部 造形表現学科 装飾系男子

仏教学部 仏教学科 僧職系男子

狙い球

アラフィフテイの女性もかつては強い結婚願望があった。なぜ、この歳になるまでにいい男に出会わなかったのか。その懐古談。

「若い頃は、ストライクゾーンが狭すぎました。ほぼド真ん中。歳を重ねるたびに、ゾーンを広げました。でも、当たりませんでしたね。今は広角打法に徹し、どのコースでも一応、手を出す心の準備はできていますよ」

## 正しい使われ方

「江川 ピーマン 北の湖」

これってピッチャーの江川が横綱の北の湖をピーマンと呼んで、バカにしたことなの？ あるいは江川がピーマンを北の湖に投げつけたのかなあ？ 逆にも読めます。

北の湖が江川をピーマンと呼んだ。北の湖が江川にピーマンを投げつけた。違う読み方もできます。

ピーマンはバカの隠語だから、バカな江川とバカな北の湖の対決のことかな。

実は、この3つはかつて子供たちに嫌われたものです。江川は狡猾こつこつ、ピーマンは臭いにお、北の湖は強すぎて憎らしい、と言われたことがありました。

## みんなに祝って欲しくて

日本には国民の祝日以外に毎月、語呂合わせみたいな記念日がある。

1月6日 ショートケーキの日、2月6日 海苔の日、3月6日 エステティックサロンの日、4月6日 コンビーフの日、5月6日 ゴムの日、6月6日 補聴器の日、7月6日 公認会計士の日、8月6日 ハムの日、9月6日 黒豆の日、10月6日 国際協力の日、11月6日 お見合い日。

じゃあ、12月6日は？

「……」

この日だけは絶対に、忘れないでね。私の誕生日です。

## 実力を誇示

― 売れっ子作家は言う。

「あんたの原稿は再生紙に、俺のはベントツに化ける」

## 職務遂行

妻 隣のご夫婦、離婚したそうよ。

夫 共働きだったよな。

妻 そう。旦那さんは消防士よ。

夫 じゃあ、火種を消せなかったんだな。奥さんは？

妻 水道局勤務よ。

夫 そっかあ。水を止めたんだあ。

## 情報格差

孫 おじいちゃん。本ならアマゾンで買えば安いし、早く手にはいるよ。

祖父 そりゃあ。旅費も時間もかかるだろ？

## 蔵書

祖父はボケ防止のために数独をはじめた。

テキストを昨日も今日も買って来た。

でも、机に積んどくだけ。

ご本尊さん

おい！ お前、俺にメンチ切ったやろ。  
いや、そんなことしてない。

うそ言うな！ やる気かい？

なに！ やるんかい？

やってやろうやないかー。こう見えても俺の宗旨は浄土真宗西本願寺派やでえ。  
なに！！

こつちには仏さんがついてるがな。負けへんでえ。今朝も線香上げてきたさかい。

お前、若いのに……、うそやろ。

「うそ？ うそと思うんなら、匂いを嗅いでみい（腕をまくり相手の鼻先へ出す）。毎日香だぞ。  
どれ、匂わんなさ。

ああ、違ごうたあ。確か、青雲香やった。

そんなことも知らんのか。

そうよ。ご本尊は親鸞さんや！

歳を取ると、幼児に帰る

まだオシメを着けている1歳6カ月の孫娘が寝たきりの祖母に声をかける。

「どつちが早く外せるか、競争しようね。お祖母ちゃん」

何でもケイケン

2度の離婚を経験している彼は敬虔なクリスチャンらしい。

加齢

若い頃は、遠い都会のことが好く見えて、憧れ、この生まれ育った地元のことを好く思っていなかった（遠視）。でも歳を重ねると、やはり地元のことを好く見えて、遠い都会のことはそれほど好いとは思わなくなった（近視）。

思案

社長、課長と平社員の3人が飲み会をした。さて、お開きとなる間際、3人3様の思案をしていた。

社長は「3人分の支払いをして会社宛の領収証をもらおう」と考え、

課長は「自分の支払い額がいくらになるか」を考え、

平社員は「他の2人が支払ってくれるだろうから、お礼の挨拶」を考えていた。

英語力

アメリカ人のボス（社長）からメールで、ある仕事ができるか否か、を打診された。文面はもちろん英語。俺は喜び勇んで承諾の返信をした。

Impossible

それ以降、ボスからは連絡がこない。（正解。I. m possible.）

履かない人生

自殺をする人はなぜ靴を脱ぐの？

はかなかった人生への形見よ。

### セクシー

蟬ヌード。脱皮中です。

### 特別ルール

プロ野球に疎い人同士の会話。

「CSって何？」

カープとソフトバンクの試合じゃないの？

### 意外と狭い

広い海も船が2隻航行すれば、狭くなる。衝突を避けよう。

### 稼得格差

メジャーリーグに所属するピッチャーの一言。

「あんたの年収、俺の1球以下」

### 意味は色々

18番って、数字の他にどんな意味があると思う。

「うん。プロ野球のピッチャーのエースナンバーだね」

そう。それから。

「イチかバチかっていう思い切るときの気持ち」

それから。

「まだ、あるかい？」

あるよ。オハコと読んで、最も得意なことを意味している。

「やっぱり、ピッチャーじゃないの」

なぜ？

「だって、ピンチになってイチかバチかってときには一番得意な球種を投げますよね」

### 漢字検定

先輩！ この漢字、読めます。

「寄席」

読めるか、と訊かれているので、きっと普通の読み方じゃないな。『きせき』じゃないの？

違います。

『よせき』か？

違いますねえ。

そっかあ。北海道に名寄と書いて『なよろ』と読ませている街があるから、きっと『よろせき』

『だな』

違います。

違うかあ。じゃあ当て字かな？ 寄る席だから、席を寄せるので『あいせき』だろ。

違いますよお。

おい、もう俺の漢字能力を試すのは『よせ』。



はい、正解です。

### クイズ

— モデルのマネジャーに聞きます。

SDG。ってなに？

答え。

ス(S) ツピンになると

だ(D) れだか判からない

女の子(G) たち。

顔も持続的な開発目標をもって手入れしましょう。

### 恋のゆくえ

彼女とつき合い始めて半年が過ぎた。その顔を見て告白する度胸のない俺はそれと分かる文面をメールに書き、彼女の心中を探ってみた。

すぐに届いた画面には、ただ一つ道路標識（一方通行）が描かれていた。



理解に苦しんだ末、俺も道路標識（徐行）を返信した。



すると、彼女からは2つの標識（転回禁止、進入禁止）が届いた。



俺はすごく焦った。で、すぐに本心を文章にして送った。

間髪を入れず届いた標識（警笛鳴らせ）を見て、気弱な俺はそっと目頭を押さえた。



### ビッグマウス

— 記者会見場。研究者は力強く言った。

研究者 この新薬は老化防止に有効だ！

記者 じゃあ、このマウスで実験してみてください。

研究者 了解。

— 1週間後。

記者 実験は成功しましたか？ 失敗ですか？

研究者 悔しいが、失敗だった。  
記者 その原因は何ですか？  
研究者 マウスが小さすぎたんだよ。

### 廃品消費

― 青テントに住むホームレス。  
自宅周辺のタバコのポイ捨てには、これ以上、目をつぶるわけにはいかない。自分で拾って吸うことにした。

### 当然

「ねえ。スノーボーにはもう飽きたの？」  
「うん。僕は3日坊主だね。両親からも熱しやすく冷めやすいってよく言われるよ」  
「ゲレンデはマイナス10度だものねえ」

### 人目を避ける

宝くじで3億円を当てた老夫婦は高級マンションを売却した後、人目を避けて辺鄙な田舎で地味な暮らしを始めた。

### 練習

投票日が近づくにつれて、△△市長選候補の支援者たちは、勝利を確実にするために市長名の模写を始めた。

### 篩ふるいすぎ

今回の写真コンテストには、6000を越える応募があった。すべての作品が審査によって篩ふるいかけられ、きれいに落ちた。

### 水を弾く

炎天下で洗車をして、ワックスがけをした。水弾きはとともよくなった。でも、顔からは玉のような汗が流れ出てきた。

### 分割画面

― 右画面。

インタビューで、その女優は野球選手との交際のうわさを笑い飛ばした。

― 左画面。

彼氏の打球は前へは飛ばなかった。

### とても広い

亡き祖父は猫の額ほどの土地しか持たない農家に生まれたそうです。でも、働き者で身体に汗しで家族を養いました。

笑、泣

市長は堅物で、安易に笑ったことがない。しかし、贈収賄罪で逮捕され、笑い者になった。

どこの国の人

××××氏は一緒に仕事するには自己中心的過ぎる。それにちよつとしたことですぐにカツとなります。これほど大きな任務のある大統領がどうしてこんなに器が小さいのでしょうか。

円と丸

授業中、先生から円の面積を求める公式を尋ねられた。マサオ君は目を丸くした。

血も動揺

先日、健康診断を受けると、血糖値が高すぎると診断された。普段、食べ物には気をつけているが、それを聞いて血圧も高くなった。

ブラック上司

わが社の職場環境と人間関係は良好です。サービス残業を要求するような上司は皆無です、とりップサービスをする。

跡形を残さない

原子力発電をめぐる討論会があるんだ。僕は太陽エネルギー推進派なので、跡形もなく燃え尽きるまで相手を論破してくるよ。

のみ込み

― 3者面談。息子の学業成績が上がらない。

母 この子は先生の言っていることがなかなかのみ込めないようなんです。

先生 どうなんだ？ ケンタ君。私の言っていることがのみ込めないかい？

息子 はい。とても飲み込めるもんじゃありません。

正直者

刑事 白状したらどうだ！ あの金を盗んでパチンコ・パチスロで遊んだんだろ？

強盗 いいえ。あのく、そのく。

刑事 奥歯に物がはさまったような言い方はやめて、正直に質問に答えろ！

強盗 はい。爪楊枝を1本、ください。

決算

― 不景気。

決算期を迎えた麺食品会社の社長は節約し、なんとかか利益を出すために自ら粉食という手段に出た。

仲良し小学生

ピッチャーで4番バッターのシンジ君はクラスの女の子たちにとっても人気がある。みんなからプレーボールと呼ばれている。

総スカン

首相はかつて、高い支持率を誇っていたが、贈収賄の疑惑が浮上すると、すべての閣僚から総スカンを食らった。閣僚たちは保身に回ったのだ。

一利

妻 ねえ、聞いた？ ケイコはヒロシが浮気をしていることを責めて、慰謝料を要求しているのよ。

夫 おや、ケイコも浮気をしているってうわさがあるけど。ヒロシも慰謝料を要求していいんじゃないか。どっちもどっちだよ。

妻 そうね。あなたの言うことにも一利あるわ。

お構いされない

A どうぞお構いなく。あいさつに立ち寄っただけですから。私、今日、少し急いでいるのですが。

B あら。お茶とショートケーキでもいかがですか？

A せっかくだから、いただきます。

貸してくれ

T タバコの火を貸してくれないか？

M わるいけど、健康のため、1カ月前にタバコは止めたんだ。

T だから、ライターでいいんだよ。

誤記？

高齢の父親が遠くに住む娘へ誕生日プレゼントや荷物を送るが、いつも戻ってきてしまう。宛名住所が自分のものになっていた。

直接、聞こう

「僕は女性と交際した経験がありません。話下手なので、会話はいつも退屈になってしまいます。ユーモアで会話を面白くするにはどうすればいいのかな？」と、好意を寄せる女性に聞いてみた。

猫の祟り

可愛がっていた猫が死んでしまった。それが理由で妻は睡眠不足でやつれていくばかり。とてもおしゃれたったのに、今ではまったくの化け猫のようです。

押し付けないで

一人で悩まないで、アダチさんに相談してみろよ。彼は苦労を重ねた人だから困ったときに頼りになるよ。アダチさんにも悩んでもらえばいいのさ。

## 両親の家督

ナイフを振りかざしたコンビニ強盗は両親の家督を継ぐ(良心の呵責から) ことになって警察へ自首した。

## 親の教訓

今学期、学業成績が落ちてしまった。昨晚、両親からこっぴどく叱られた。しっかり勉強しないとどうなるか教えられた。それが一番の勉強になった。

## 髪型落後

― 師匠が弟子に小言をいう。

師匠 お前は、はなし 髪を覚える前に、その長髪を何とかしろ。うつせう 鬱陶しいんだー。

弟子 自分は上方落語の噺家になりたくて、入門させていただきました。この頭なんかで評価しないください。

師匠 何！ そんな了見だから、他の弟子よりも昇進が遅れているんだ。

弟子 じゃあ、私はこの髪型で落後ですか？

## 神がかり

妻 テーブルの上にあるものは何？ 新興宗教のピラ？ あなたに信仰心なんてあったけ！

夫 うーん。ないよ。ピンポンって鳴ったから、玄関へ出ると、いきなり2人組の老婦人から手渡されたのさ。口をはさむ間もなかったんだ。

妻 そう。分かるわ。私も同じような経験を何度もしてるもの。いつも次に来たときはきつぱり「帰ってください」って断ろうと思うけど、なぜかできないのよね。

## 連続するTV番組名からの想像

7:00 火曜サプライズ

7:56 踊る！ さんま御殿!!

9:00 ザ！ 世界仰天ニュース

10:00 幸せ！ ボンビーガール

想像 この夜のゴールデンアワーはびっくり(！)してばかり。(付記。2017年11月21日、火曜日、STVの番組欄。)

7:00 この差って何ですか？

8:00 教えてもらう前と後

8:57 マツコの知らない世界

想像 マツコは色んなものの違いを教えてもらって知ったつもりでも、まだ知らない世界があるようだ。(同上、火曜日、HBCの番組欄。)

0:00 親の知らないところで箱入り娘が頑張った！

0:55 ウチくる!!

1:55 アンビリバボー

想像 叶わぬ恋をしている箱入り娘がいた。娘は親に内緒でひたすら花嫁修業をしていたようだ。

その結果、好きな男から「ウチくる!」とプロポーズを受けたのかもしれない。それは娘にとっても親にとっても予想外のことだったのだろう。(付記。2017年11月19日、日曜日、UHBの番組欄。)

0:55 新婚さん いらっしやい!

1:25 アタック

1:55 テンション上がる会?

想像 この時間帯は新婚さんたちがクイズ番組に出演して賞金をもらい、さらに気分の盛り上がる頃だ。(同上、日曜日、HTBの番組欄。)

11:40 ケンミンショー

0:35 クギズケ!

1:30 そこまで言つて委員会NP

想像 タレントが自分の郷土料理を熱く紹介する番組に専業主婦が夢中になって、49都道府県すべてを訪ね、食べさせて! と現役で働く夫に強く言つても許されるのかい。(同上、日曜日、STVの番組欄。)

9:00 行列のできる法律相談所

10:00 おしゃれ

10:30 今からあなたを強迫します「裏切り者」

想像 行列ができるほど人気のある法律事務所の弁護士に訴訟の弁護を依頼したが、負けた。依頼者は綺麗に着飾り、その弁護士を訪ね、「裏切り者」と叫び、今からあなたを脅迫します、と冷やかに言いそうだ。(同上、日曜日、STVの番組欄。)

### 残念な学生は授業中に

寝ている、

俯いている、

ぼんやりしている、

スマホをいじっている、

ニタニタ笑っている、

私語をしている、

窓の外を眺めている、

ペットボトルの水をしきりに飲んでいる、

他の講義のレポートを書いている、

鏡を出して、顔や頭髪を撫でている。

### 幕末歴史ファン

友人 日本史の教科書から坂本龍馬や吉田松陰が削除されそうだねえ。

ファン おいおい、冗談は止めてくれ。俺は彼らの大ファンなんだよ。それに彼らは幕末に日本に行く末を考えてくれた貴重な人物じゃないか。日本人なら誰でも知っていることだろ。

友人 そうなんだけど。

ファン 削除する理由は何?

友人 うん。教科書に入れるべき事項数に上限があつて、新たに加えるものを勘案して、削除

するかもしれないんだってさ。それに「実際の歴史上の役割や意味が大きくない」ということらしい。

ファン くそ！ もし、削除されることになるよ、今回は「明殺」で、その刺客は歴史に名を遺すのかあ。忌々しいかぎりだ！

(付記。「朝日新聞」2017年11月14日参照。)

### そうならざるを得ない

— プロ野球、高卒新人選手の入団発表。

「契約金 1億円プラス出来高払5000万円」

これって俺の勤続25年分。出来高って何だあ。

「年俸 1500万円」

これは俺の50倍。

俺はく俺はくく俺はなくくく、愚直に生きるんだあ！

### 説教の効果

— 未婚の娘が不倫相手の子どもを宿した、と告白してきた。父親は激怒した。

「お前のようなふしだらな女が産んだ子はどうせろくな人間にしかならない！ 娘はお腹を押さえ、詫びるよう、涙を流して訴えた。

「この子は私がシングルマザーとして立派に育てあげます」  
しかし父親は顔を真っ赤にして、さらに叱った。

「健全なる腹に健全なる子が宿るって言うだろ！」

娘は、俯き笑いをかみ殺した。

「ううっ……、それって（心中、）健全なる精神は健全なる身体に宿る」だろ」

### 老対若

高齢者から見ると、近頃の若者は……、元気がない！

若者から見ると、近頃の年寄り……、元気すぎる！

### TV番組の編成方針は？

7..30 ガッテン！

最新版コレステロール特集！ 悪玉&善玉の驚き 真相2週間で数値改善作戦。

8..15 探検バクモン

「宇都宮のギョーザ」

これでは作戦失敗だろ！

### 質問時間

「与党5時間・野党9時間」

ただし、ヤジの時間も含まれます。

## お袋の味は均一

新聞広告「びつくりです。お湯をそそぐだけで、ここまでおいしいなんて」  
カップラーメンではありません。おみそ汁だそうです。

## キヤッチコピーへの回答

60代「筋肉の衰え」が気になる方へ。

「重い荷物を持つとよろよろする」

答 小分けにして運びましょう。

「階段でつい手すりに頼ってしまう」

答 転ばぬ先の準備です。

「仕事や家事で動き回るのがつらい」

答 休み休みしましょう。お薬、サプリメントに頼る前にひと工夫できますよ。

## 推薦書

就活中の男子学生から推薦書を作成して欲しいと頼まれた。彼の講義や演習への参加意欲は必ずしも積極的ではない。

教授 どんな会社へ提出するの？

学生 はい。ペイントを製造している会社です。

教授 ペイントってトタン屋根に塗るもの、ペンキのことかい？

学生 そうです。塗装業です。

教授 分かった。作成しておくから、明日、取りに来なさい。

『推薦書 …△△君は未知なる塗(糊)代を持っています。貴社のどんな色にも十分に染まり活躍してくれる人物です。……ここに推薦いたします』

## スケッチ疑惑

アメリカの大統領が1995年に慈善オークション用に制作したエンパイアステートビルスケッチが1万6千ドル(約180万円)で落札されたそうだが、制作時の落札額は100ドル以下だったらしい。今回の落札者は公表されていない。どんな奥の手(Trump card)を使ったのかな？(付記。Asahi Weekly, 2017, Sunday, Nov. 5 参照。)

## 発熱

― ある若者が市販薬を飲んでも熱が下がらないので病院へ行った。

「いつから出ているのですか？」と60歳代の医者は訊いてきた。

「はい。土曜日の夜になると出るんです」

医者はペンを動かしながら懐かしそうに笑みを浮かべて言った。

「かつて私も土曜日の夜は熱かったです。はい。Saturday Night Feverですね」

(付記。「Saturday Night Fever」は1977年に世界中でディスコブームの火付け役となった映画である。)

## 後悔

父 若い頃、一度だけお母さんに手をあげたことがあるんだ。  
子 はい、って返事をしたの？



父 違う。手をあげるってことはお母さんを叩たたこうとしたのさ。

子 ええっ。優しいお父さんがお母さんを打ぶとうとしたの？

父 そうだ。でも、そのとき後悔したよ。

子 どうして？

父 すぐにお母さんの強烈なパンチが顎あごに飛んできたから。それ以来、お母さんには頭があがらなくなったんだ。

子 へっつ。ずっつとガードしてるんだあ。

### 読み方の違い

おーいちこなな  
O157の△△△のゝ。患者さんのカルテの番号みたい（腸管出血性大腸菌）。

ぜろいちこなな  
O157の△△△のゝ。電話の市外局番みたい。

### 皮肉な見方

― 新聞の2ページにわたる全面広告。  
右のページ。

祝「美肌県グランプリ201×年」で〇〇県が美肌全国1位に輝きました。  
8項目で美肌を評価した「美肌偏差値は70・97」。  
ちなみに最下位は△△県で「偏差値20・57」。  
左のページ。

「いつまでも健康肌で。夜用オイルインワン塗って寝るだけ。浸透・ハリ!!」  
「クリスマス限定 モニター募集! 乾燥しがちな肌を『凛とした大人の艶肌』に」  
これって空っ風の吹く△△県への面当てかあ？

### 2100年

― 車は自動運転。

孫（クラシックカーの絵本を見ている）お祖父ちゃん、ハンドルって何？

祖父 車の進む方向を操作する、こんな円いものだったよ。

孫 ええっ。お祖父ちゃん、ハンドルを握ったことがあるんだあ。格好いい!

車の教習所。

まずエンジンをかけてください。次に行きたい場所を指定します。後はゆっくり寝ていてください。

### 乞食の悲劇

― キャッシュレス社会。

旦那。わずかでいいのでお恵みを。

おお。恵んでやりたいが……現金を見たこともないし、手にしたこともない。

じゃあ、その缶コーヒの中身を飲み干して空き缶をください。

どうするんだあ。  
廃品回収で現金化します。

旦那。わずかでいいのでお恵みを。

おお。恵んでやりたいが……現金を見たこともないし、手にしたこともない。あんたあ、スマホをもつてるかい？

いいえ。はるか昔には持っていましたけど、今は契約する金がありません。  
そっかあ。ネットバンキングで入金してやろうと思ったんだがなあ。

### 全入時代

― 少子時代の大学広報誌。

特別な入学試験はいつさい課しません。入学願書の提出のみで合格とします。早い者勝ちです。

### 上司の目線

会社では命令口調でしゃべると、上から目線と部下に嫌味を言われる。駅のエスカレーターで先を登るミニスカートのお尻を見上げれば、下から目線と疑われる。どこに焦点を合わせればいいんだよ。

### コピペ

― 電車内で小耳に挟んだ話。

H お子さん、何歳いくつになった？

B 大学4年生で印刷会社から内定をもらって、今はバイトばかりしてるよ。

H もう就職かあ。大きくなるのは早いなあ。女の子だったよな？

B そう。仕事に役立つって言って、ワードとエクセルの検定試験を受けて、安っぽい資格も取得したようだけど、あんなの役に立つのかね？

H 資格なら持たないよりはましだろ。ところで、4年生なら卒論をまとめている時期じゃないの？

B うん。それがさあ。

H なに？

B コピペばかりの文章さあ(笑)。先日、ちよつと見せてもらったんだ。

H 見せるだけ素直じゃないか。

B でも、授業料400万円払った成果がコピペじゃ。払った俺はたまらんよ。

H コピペねえ。資格が役に立ってるじゃないか(笑)

### 無記名

大学での学生による授業評価アンケートは無記名で行われる。アンケート結果は成績に一切反映しない。

自由記述欄 この授業への要望を書いてください。

「僕だけが中間テストの成績が悪く、先生に5回、呼び出されました。単位をください」  
自由記述欄 この授業へのあなたの取り組みについて書いてください。

「毎回、出席し寝ていました。みんな寝ていたのに、僕だけが注意されました。単位をください」

## 教材

ある地方の大学。車での通学が禁止されている。近くの大型パチンコ店の駐車場に張り紙があった。

### 警告

××大学の学生さんへ

当店を利用する以外の目的で駐車をしないで下さい。

見つけたときはレッカー車で移動し、大学へも連絡します。

この張り紙を見た大学職員の感想。

教務課 パチンコ・パチスロをする合間に授業に出席しているかもしれません。

就職支援課 ぜひ、駐車している学生を雇ってやってください。

社会連携課 補導し、学生名を教えてください。学業成績と駐車場の利用頻度との関係を分析する基礎データとします。

学長 違法駐車か？ 合法か？ いい教材ができる。

## 人名魚

S 人の名前が出てこない……。

H 放っておいていいの？ それって、認知症の始まりかも？

S 平気、平気、放っておいていいのよ。

H なぜ？ 心配じゃん。

S 魚類事典を見てんだから。

## ほうがく違い

G 大学へ進学された息子さんは、何を勉強されているのですか？

F それが、日本古来の音楽（邦楽）を勉強できる学部を目指していたのですが……。

G それで？

F 偏差値が上がらなくて、法律系の資格を取るのに有利な（法）学部へ進学したのよ。

G それじゃあ、方角違いじゃない。

F そうなのよね。あの子、小さいときから方向音痴だったから。

## 卒業学部

阿部君は2年留年して大学を卒業した。留年の原因は必ずしも学力不足ではなかった。毎朝、家を出るには出るが、大学よりもパチンコ店の軽罪学部へ足を運んでいたからである。

## 読書感想文

課題図書 川端康成著『伊豆の踊り子』

生徒 「僕は、まだ真剣に自分と向き合ったことがありません。また、本当の恋愛をした経験もありません。なので、この小説で描かれている青年の自我の悩みや感傷、それに青年の清純無垢な踊り子への淡い恋心や哀歓について理解することは不可能だと思われまます。」

先生 これが君の感想文？

生徒 そうです。

先生 私も同感です。

生徒 はい？ 先生、いや、えっ？ どうもありがとうございます。同じ考えでうれいいます。同じ考えでうれいいます。

### 万事休す？

妻 おもしろいものを見つけたわ。

夫 何さ。

妻 ヒントをあげようか。

夫 うん。

妻 あなた、ベルリンへ出張に行ったわよね。何か白状することない？

夫 別に……、やましいことは何もしてないよ。

妻 そうかしら？

夫 3日間滞在して、「美」に関する日本とEU6カ国のジョイント・リサーチ・プロゼクトをなんとかまとめて帰ってきたんだ。意思の疎通を図るのが大変だったあ。

妻 それなら、あなたの上着の内ポケットから出てきたこのチケットは何なの？ カンノウクラブ（邦語名で官能倶楽部）。これってストリップでしょ？ 秘密はバレバレよ。ちゃんと認めなさいよ。

夫 うーん、行ったけど。きらびやかな民族衣装を身にまとった女性たちが一枚一枚、脱いでいくんだ。この点における「美」の捉え方は各国とも共通していることを体感したよ。

### 不労父子

父 これはわが家に伝わる秘伝の不老不死の薬だ。

子 じゃ飲めば、死なずにずっと生きられるんだね。

父 そう。飲んだ時点での体力と能力を永久に維持できるんだ。

子 そっかあ。すぐに飲もうよー。

父 なぜ、お前は急ぐんだ？

子 だって、体力も能力も維持できるんだよ。僕たちは働かなくてもいいじゃん。

父 不労父子になるうってかあ？

### 浮浪父子

A あの父親と息子は、ずい分とみすばらしいみなり身形をしているな。

B なんでも、年をとらないで永久に生きられる薬を手に入れたとかで、働きもせず、ああやってあちこちうろついているのさ。

A なるほど。浮浪父子ってことか。

### 物忘れ

女房は頻繁に物忘れをするようになった。

「それはさつき言っただろ」

そう論す旦那もこのフレーズを何度言ったか忘れてる。

### どう読む？

魚(うおへん)に占(うらな)いと書いて、

魚座(鮎、アユ)。

魚(うおへん)に春(はる)と書いて、

メダカ(鱒、サワラ)。

魚(うおへん)に非(あらず)と書いて、

イルカ(鯨、ニシン)。

魚(うおへん)に危(あぶ)ないと書いて、

サメ(鮫、ハヤ)。

口(くちへん)に鳥(とり)と書いて、

クチバシ(鳴、なく)。

口(くちへん)に入(はい)ると書いて、

キス(吠、かます)。

口(くちへん)に土(つち)と書いて、

落とし穴(吐、はく)。

口(くちへん)に寸(すん)と書いて、

おちよぼぐち(吋、インチ)。

女(おんなへん)に口(くち)と書いて、

おしゃべり(如、ごとく)。

休(やすむへん)に鳥(とり)と書いて、

九官鳥(鶇、みみずく)。

年(としへん)に鳥(とり)と書いて、

年寄り(鴉、トキ)。

### 自意識過剰

| 数学の答案用紙が返却される。

K 楽しみだなあ。今回は頑張ったから。

A 見てもしかたないわ。結果は明らかだし。

K ヤッター。ボクはBをもらったよ。合格だあー。ヤッター、ヤッター。

A わたしはEで落第点だった。

K ええっ? そんなに解けなかったの?

A 肝心なのは設問じゃないわよ。わたしは顔が美形じゃないから。美人が羨ましいわ。

K そっかなあ。まあまあイケてる顔だと思うけど。

A 先生ってさあ。ときどき生徒の見かけが気に入らないことってあるんだよね。

K 顔でえこひいきをするなんてことないだろ。ボクだってイケメンじゃないもの。ちよつと答

案用紙を見せてよ。

A いいわよ。はい。

K ああれ。何にも書いてない。白紙じゃないかあ。

A だから。先生に気に入られる顔じゃないとなすすべがないんだってばー。

### 黙って座れば…

| 飲み屋で小耳にはさんだ話。

T 価値観が多様化して、部下には命令口調でしゃべれん。

M なぜ?

T パワハラって言われそうぞ。  
M どうパワハラなの？  
T 君は……すべきだ！って言うぞ、強迫しているみたいに聞こえるぞうだ。  
M じゃあ、「すべきだー！」って忠告できるのは占い師だけかあ？

### 熟慮

車は急には買えない。  
買うなら大酒飲むな。  
大酒飲むなら買うな。

### 要々注意

― 横断歩道。

右を見て、左を見て、もう一度右を見て、両手を高く上げて、と左をキョロキョロと盗み見ながら、渡りましょう。

### 気分は下がる

H 来月から、家賃の高い部屋に住むことになりそうです。  
M ほく。昇進したの？ 昇給かあ？ 良かったなあー。  
H いいえ、契約の更新で家賃が上がるんですよ。

### 常識は変えられる

赤信号、みんなで渡れば青になる。  
青信号、みんなで停まれば赤になる。

### ニートになる人、ならない人

― 地下鉄の車内で小耳にはさんだ話。

Y わたし、会社を辞めて、すつこくヒマだから。

S いいなあ。辞められる人って、メチャ羨ましい。

Y 勤めていたときは、休みたい休みたいって思ったけど、これだけヒマがあると罪悪感を感じるわ(笑)。

S へーっ。でも、しばらくのんびり旅行にでも行ってきてから、次の仕事を探せばいいでしょ。

Y いやー。何にも予定なんてないよ。ニートだからニート！

S NEET。エヌ・イー・イー・ティー。

Y そうそう。NEAT。エヌ・イー・イー・ティー。

S は明らかにYの間違いに気づいていた。しかし、こうかわした。

S 仕事も教育・訓練も受けていないニートなのに、ござっぱりした洋服を着てるじゃん。

(付記。NEATには「小奇麗な」という意味がある。)

### 酔っ払いの自虐ギャグ

ボクはねえ。ウイく、ウイ。どんなに腹が立っても女性には手を上げたことはないっく。でも、手紙はたくさんあげたことがあるー、あるっ。しかくし、だよ。一通も返事をもらったことはないっく。ぜんぶ、破らレター！ ウイく。

アレって？

昨日さあ、アレを観に行っただ（野球）、えっ。君もアレを観てたんだあ（あの試合）、うん。あの場面で、アレはないよな（強攻策）、そうそう。あそこはアレをすべきだったよ（送りバント）、君もそう思う？ アレは不調だから（4番打者）、その後、今、売り出しのアレを使っただけ（代打）、最後にアレを投入しておけば、勝ってたよな（クローザー）、アレは全部、アレの采配ミスだよ（敗因）（監督）。

ちゃんと名前はありますが

「おいしい」って呼ぶと、「おいしい」って答える。  
「こだまでしょうか？ いいえ、オームです。」  
また、「おいしい」って呼ぶと、「こだまじゃない」って答える。AIロボットでしょうか？  
いいえ、女房です。

新聞広告

— ある日の朝刊。いつもより多い薬品やサプリメントの広告をじっくり読んでみた。その感想。

A社 「11月14日は、世界糖尿病デーです。糖尿病患者さん一人ひとりのより豊かな人生のために「こんな記念日があったのかあ。」

B社 「カラダを愛するアイス……豆乳やとうもろこし由来の食物繊維といったこだわり素材で、糖質・カロリーをコントロール」これって糖尿病患者でも食べていいアイスクリームのこと？

— 次のページ。

C社 「アトピーが乳酸菌で!? アレルギー症状の改善が確認された」乳酸菌は腸にいいのかもしれないが、

D社 「つらい……便秘や痔に!! 優しくスルツと出る『アロエ』の便秘薬」がお薦めらしい。さらに次のページ。

E社 「近頃、何でもない事ができなくなってきた。それは加齢による筋肉量の減少が原因です」

F社 「血圧が高めの方の健康緑茶。高めの血圧を1〜2週間で改善」

G社 「自毛を活かして髪を増やす」

H社 「60代70代に売れてる歯みがきとは巨大大豆に秘密が」  
うん。糖尿、アトピー、便秘、筋肉、血圧、頭髮、歯。すべて自分に当てはまるようで、憂鬱になる。もう一枚捲った。

I社 「ハツラツとした毎日を送りたい。いろいろと気になり始めた。ローヤルゼリー」なんと気分が晴れる。

最終ページ。

J社 「やっぱり保険に入っておきたいと思ったら! 年代別の〇〇生命の医療保険・死亡保険。生涯保障」どう転んでも、ここに落ち着くかあ。

スマートフォンを使い、

ますます賢くなる子、ますます目を痛める子。

(付記。Smartには「賢明」と「痛める」の意味がある。)

激易 げきやす

― プロ野球。

超簡単な送りバントを失敗した選手へファンが声をかける。

「バッティングセンターで練習してこい！ 40球で200円。今なら激安やでえ〜」

超ボケ vs 負けないボケ

― 海沿いを走る電車の中。観光用の中吊り広告がかかっている。それに気づいた若いカップルが海を眺めながら話している。

女 リュウキュウつてどこだっけ？

男 沖縄をむかし、むかし、そう呼んでいたのさ。

女 むかし、むかし？

男 そう。徳島を阿波、高知を土佐って呼んでいただろ。

女 ああ。リュウキュウ、思い出した。周りは海だよな。

男 もちろん。

女 あの、漁師がカメに……、えーつとー。

男 漁師？ カメ？

女 浦島太郎が行ったところだよなー！

男 いや、違うだろ。それは(笑)、浦島太郎は種子島だろ？

女 えー、合ってるよー。正解だよ！ 浦島太郎はリュウキュウ(竜宮) りゅうきゅう だって!!

男 あー、えーつと。そうだっけ？ でも太郎って、……いや、まてよ……。

女 種子島は桃太郎だよ〜ん。

男 違う！ 違う！ これだけは自信があるぞ。桃太郎は絶対に屋久島だってば！

脱皮

― 1人娘の趣味は部屋でクモを飼育すること。今朝も、遅く起きてきて、母親に声をかけた。

「昨晚、アシダカグモの脱皮を見てて、4時間しか眠れなかったあ。あくあ  
たまらず母親は小言を聞かせる。」

「何を暢気なこと言ってるの。自分が早く脱皮していい男をつかまえなさい。あなたアラフオでしよ」

すると、寝ぼけた頭のまま娘が返した。

「アシダカグモのメスってねえ、5年から7年生きて、10回も脱皮するよ」

母親は娘を直視し、語気を強めた。

「あなたは1回でいいから」

この言葉は娘の心に刺さったようで、低く言った。

「アシダカグモはゴキブリを捕食するんだぞ」

泣き、笑い

親の意見も聞かず、一流大学卒の息子は落語家の道へ進んだ。



親を泣かすのに3分、客を笑わせるのに12年かかった。

### 一枚上

― 同人誌に私小説を投稿した。

合評会では同人たちから、「面白くない」という評価をもらった。「私小説です。心境を書いたものです。伝えたいことは書いた本人にしか分からないでしょ」と言い返したが、まだ心の中で呟いていた。

「入会規約のどこに “面白い小説を書け” という一文があるの？」

### 専門バカ？

― 大学の父母懇談会会場。

司会に促され、ある老教授が開会の挨拶に立った。

「教員の〇〇です。本日は……私ども男根の世代から今の学生たちを見てみると……」

一瞬、耳を疑い、キョロキョロと視線を泳がせてから俯いた。

「……まだまだ男根世代は元気で萎れることはありません」

顔を上げ、同席した父母たちを見ると、その目元と頬は緩んでいた。

笑いを取りたかつたのだろうか？ 挨拶は終盤へと続く。

「これからも男根世代のそそり立つ覇気を学生たちに伝えていきたい、と思います。本日は……」  
教職員たちの顔は強張っていたが、父母たちの間には意外と何とも言えないほんわかした空気が漂っていた。

最後に、司会が笑顔でしめた。

「まるで男根世代を代表するようなご挨拶でした。文学部日本語学科 ××教授。ありがとうございます。ございました」

### 誤字

― 冬山で5人が雪崩にあった。

隊長と隊員1名は自力で這い出した。隊員のスマホにはかろうじて電源が残っていた。今にも消えてしまいそうな声で隊長は「警察へ救助を要請するメールを送れ」と命じた。

送信内容『救助を頼む。2人は命に別状なし。3人は心配停止（正しくは心肺停止）』

送信が終ると、『電池がありません』という表示が点滅した。

受信者「全員、無事だ。特別、急ぐことはない」

受信の画面を覗き込んだ同僚「ソウナンですかねえ？」

### 数学嫌い

♪微分、積分、何になる。おいらにゃあ、おいらの夢がある♪（「受験生ブルース」）。  
でもお、できるといい気分。

### プライド

給湯室で女子社員が上司の陰口をたたいていた。

社員たち（笑） 脂ぎってさあ、おデブで、おまけに輝きのないハゲ頭、磨すけって、それに……。  
その上司が小耳にはさむ。

上司 ハゲとはなんだあ！ ハゲとは！

社員S はいー。スキンヘッド。

上司 ……？

社員Y はっはいー。逆ポタル！

上司 ……??

起死回生の一言？

社員M 失礼しましたあー。ダイヤモンドヘッド!!

**声に出して復唱させたい日本語**

― 羨に厳しい祖父が書いた掛け軸。

「努力をしても、結果を求めない。でも、努力をする」  
毎日、祖父は孫に復唱した回数を尋ねる。

**威張れるか**

― 学生が老教授に聞く。

学生 先生。ご専門は何ですか？

教授 ふっふっふっ。学内行政だよ。

学生 どんな業績があるのですか？

教授 大学の組織改革だな。とくに、研究業績面での……。

学生 これまでに論文を何本執筆されたのですか？

教授 書かなくてもいいように改善したのさ。へっへっへっ。

**どっちを選ぶ**

― 11月24日は、

いい尿の日（ある薬品メーカーの制定）、

いい女房の日。（わが家の制定）

**忘却とは**

私は、通常、小さな喧嘩なら忘れてしまいましたが、元カレは些細なことにも根を持つタイプでした。そのことが、いつまでも忘れられません。

**名朗読**

― 書店でのイベント。

アガサ・クリステイーの『そして、誰もいなくなった』の朗読会は開始とともに聴き手の数が増え、30分後には『そして、みんな席は埋まった』。

**裏切り者**

同僚 貯金をしようと思えば、職場に弁当を持ってくるべきだよ。毎日、外で昼食をとると、かなりな出費になるもの。

俺 でも、専業主婦の女房はいつも外でランチしてるからなあ。

## 著しい成長

— シアトルで留学生生活をしている息子。  
日本から来た父親を野球観戦に連れていく。

「お父さん。試合前に何か食べる？」

「おお。ケチャップとマスタードがたっぷりついたアメリカンドック（アメリカの犬）にしようかな？」

∴

「はい。連れてきたよ」

「おい。これは犬じゃないか」

「お父さんが食べたいのはフランクフルトに串を刺し、小麦粉の衣をつけて油で揚げたものだよ。お前も好きだったろ」

「ああ。コーンドック (corn dog) のことねえ」

## お仕事ですから

この週末、家族でドライブに行く予定でした。が気象予報士が大雨の予報（誤報）を出して、私たちの計画は水を差されてしまいました。

## 頑固

お祖父ちゃんは最近、よく腰の痛みを口にします。医者へ行くよう説得しているのですが、とても頑固で聞く耳を持ちません。なので、最初に耳鼻科へ行くよう勧めています。

## 当世学生気質

教員が教室へ入っても、いつものように子どもたちは雑談に夢中です。

「みんな！ 静かにしなさい！ 教科書と筆箱を出しなさい！」

ここは大学の講義室です。講義名は「道德教育論」でしたあ。

## 粉

両親は私を大学まで出すために身を粉にして働いてくれました。そのかいあって、私は大手の製粉会社へ就職できました。

## ネタ

先週、ヒロシはある女性から一方的に振られた。しばらく落ち込んでいたが、ミラーボールの下ではしっかりネタとして使っていた。

「また、好きな女性から関係を立ち切られてしまったとです。その女性の名前はアカリです。もう、お先真つ暗です。ヒロシです。ヒロシです……」

## パ と バ

— 認知症がひどくなるお祖父ちゃんへの誕生日プレゼント。デパートの洋服店で。

祖母 色々あるね。お薦めはどれかな？

孫娘 このバーカーはどうかしら？ 夜中、出歩くのに暖かくていいよね。  
どの指

— 祖母の口癖。

「人に後ろ指をさされるようなことはしちやいけなよ」

### 神になった気分

ニューヨーク旅行では、自由の女神を見学した。展望台からは下々の暮らししもじもを眺めて堪能した。

### 親友

君は僕にとつて「無二の親友」なのだから、1000円貸してよ。  
いつも君は貸してくれ、貸してくれって、僕からすると君は「無理の親友」だよ。

### 冗舌

べらべらべら、しゃべって。まるで君は水を得た魚、金を得た貧乏人だな。

### 本名は？

「エンタの神様」ってお笑い番組があるけど、エンタってなに？  
それは名前だろ。ほら、『小僧の神様』って小説があるじゃない。あれと同じさ。  
じゃあ、『トイレの神様』って歌が流行ったよね。  
あつたあつた。だから、エンタっていう小僧がトイレで臭い芸をするんだらうよ。

### 字違い

彼は地主らしいよ。  
ほく。そりゃあ、辛いだろ、痛いだろ。  
えっ？ どうして？  
痔主（じぬし）だろ。

### 手抜き

「お袋の味」って分かる？  
ああ、分かるよ。女房がチンして温めて作ってくれる料理のことだろ。こんな袋に入っていて…。  
それはレトルト食品だよ。  
えッ？ うちじゃあ、定番だぞ。

### 売れ始めた長編作家

— ある日。  
「あら、いけない。あなたごめんなさい。ロンドンで買ってきた2万円のティーカップを割ってしまちゃった。本当に、ごめんなさいね」  
作家というものは、この世のあらゆることを作品の材料にする。  
「なあくに、いいよいいよ。ティーカップのことを書いてモトをとってやるさ」

— 別の日。

「あなた、今日、電車が混んで、お財布をスラれちゃった。買物した後で2万円しか入って  
なかったのだけど、本当に、嫌よね、スリに遭うなんて」

作家というものは書く材料が多いほど、構想が膨らむものである。

「いいってことよ。電車、スリ、買物をテーマに1本長編を書いて印税を稼ぐからさ」

しかし、いざ落ち着いて考えてみると、これらの事件をどのように書いても原稿用紙3枚ほどにしかならず、これではとても損害の穴埋めはできません。

腹を立てて、作家は、妻を怒鳴りつけた。

「このバカが！ 間抜けが！ いくら赤字を出せば気がすむのだ。とても長編にはならん」  
冷やかに、妻は反論した。

「ショートショートならいけるんじゃない」

### 大学4年生の言い訳

学生 バイト先で風邪をうつされて、身体がだるいんです。それに今日は朝から3つの講義に出席したので……。すみません、ゼミナールを休ませてください。

教授 あなたはよく欠席するね。これで4回目だろ。嫌なことがあっても、体調が多少、悪くても出席しないと……。今日は休んで男友達とどこかへ遊びにでも行くのかい？

学生 いいえ、それは絶対にないです。帰って寝ます。

教授 もうゼミナールを辞めるか。他の科目で単位を修得すればいいんじゃないか。

学生 いえ、それは困ります。本当に、身体がだるいんです。

教授 あなた内定をもらっているよね。来年からは社会人になるんだろ。そんなことで会社勤めができるのかい？ 少々、疲れてても、風邪気味でも入社してうまく乗り切らないと、ちゃんとした仕事もできないし、勤務評価にもひびくよ。

学生 その点は大丈夫です。就職先の経営者は本学のOBですから。

### 年老いた脚本家

― オレオレ詐欺、還付金詐欺、未公開株売却詐欺、いずれも電話による対応はその会話を録音することが犯人にとっては一癖嫌らしい。

ピーー。録音メッセージは5件です。再生します。ピーー。

「おじいちゃん、オレ、もうだめだよ。交通事故をして示談金を今日中に払わないと、会社にばらされて、クビになっちゃうよ。300万円、口座に振り込んでくれないかな？ もうオレ死んだほうがまだよ。このことは誰にも言わないでね」

「こちらは医療費還付センターです。私は担当の悪人(アクト)です。あなた様が1年前に病院で支払った医療費が還付されます。時間が過ぎていたので手続きをするには3万円を還付金受取り口座へ振り込む必要があります。この件については誰かにしゃべるとあなたの権利は消滅しますから、しゃべらないよう願いますね」

「はじめまして、私、ボロ儲株式会社の有噌(ウソ)と申します。上場予定の未公開株を購入するためあなた様の名義をお貸ししていただけませんか。謝礼は20万円お支払いします」

「私、裁判官の能無(ノウナシ)と申します。あなたが行った名義貸しは法律違反です。すみやかに解決するには法的手続きが必要です。ついては20万円をレターパックで早急に送付して下さい。いいですか誰かに相談せずに送付してくださいよ。でないと、判決は死刑になりますよ」

「もしもし、はじめまして、私、宝くじ情報提供会社の担当山分(ヤマワケ)と申します。当社は宝くじ「ロト6」の当選番号を予想し、その情報をお客様にご提供しております。このたび、

わが社のマーケティング調査に基づきまして、あなた様に当選番号をご提供できることになりました。百発百中のはずれ券なしです。ご提供に際し、登録料が必要になります。今回が初回でするので、お安くなっております、指定の口座へ2万円をご入金してください。入金の確認がとれ次第、すぐに当選番号をお知らせします。なお、個人情報保護法により、この情報はわが社の極秘情報となっておりますので、誰にもしゃべらないように願います。ピーー。5件の再生を終了します。ピーー。」

番組名は『劇場型詐欺』に決めているのだが、まだ情報が足りない。これでは書けん。情報、情報、……もつと情報が欲しい。電話はまだこないのか？

### 皮肉

「馬の肉を桜肉、猪は牡丹、鹿は紅葉と呼ぶ」

「……？」

「なぜだか知っているかい？」

「……？」

「これは江戸時代にさかのぼるんだけど、当時は仏教の影響で動物を殺生することが厳しく規制されていて、獣肉を公に食べることができなかったんだ。そこでこの隠語で呼んでこっそり食べていたというわけさ。これくらいは一般常識だ。ヘッヘッヘッ」

「……？」

### 問診

おばあちゃん、先生に診てもらおう前にちょっと質問に答えてくださいね。おばあちゃんには息子さん1人いますよね。

「はい、はい、いますよ」

いま、息子さんはどこに住んでいるか、知っていますか。

「はい、息子は大会社に勤めています……素直な子でねエ、あの子は権謀術数に長けてないの、地方へとばされたようです。はい」

どこだか分かりますか。

「はい、聞いたことはあるけど、確か……、確か……、はい、聞いたことはあるけど……」

### 身を守る術

1. 右の頬にニキビが出たら、なんとか苦心<sup>くしんさんたん</sup>惨憺<sup>たん</sup>して左の頬にも同じようなニキビを出すこと。シンメトリーを保つことは顔を美しく見せる一つの手法である。
2. 町内会長に選ばれることを免れるには、自分の悪評を広めるべきである。
3. 花粉症を悪化させないためには、その季節、女性から身を遠ざけることである。
4. 考える力を身に付けるには、「いつするか」って訊かれれば、「今でしょ」って答えないで、何をするのか、それを何のためにするのか、を確認する余裕を持つべきである。

### 臭いヤツ

――空港で男が入国審査を受けている。

What is your purpose? How long do you stay here?  
そこへ麻薬捜査犬が鼻先をクンクンと前後左右上下に揺りながらやってきた。突然、男の尻に鼻をくっつけたまま動かなくなった。男は警官に両腕を抑えられ、事務室へと連行された。5分ほど後に、男は何事もなかったような顔をして Toilet から出てきた。

### 思索

酒は透明だが、頬を赤くし、小水を黄色くする。  
上司の悪口は酒量のメートルを上げるが、信用を下げる。  
詐欺師が「オレ、オレだよ。おぼあちゃん」とは言えるが、本名を名乗ることはできない。  
女房に耳垢をとってくれと頼めるが、鼻糞をとってくれとは頼めない。  
女房に爪を切ってもらうのは容易であるが、縁を切ってもらうのは一苦勞である。  
冗談は大声でしゃべれるが、ナイショ話は小声でしゃべる。

### 簡潔な質問と答え

時計とは（自由を制限したり、拡大するもの）、  
火事を出さないためには（火を使わないこと）、  
雨に濡れないためには（外出しないこと）、  
喫煙をやめるには（タバコを吸わないこと）、  
酒とは（酔っ払うもの）、  
ダイエットをするには（努力すること）、  
泳ぐには（水に入ること）、  
金を貯めるには（使わないこと）、  
本とは（読むもの）、  
本を読むには（文字を習うこと）、  
本を読むとは（空想すること）、  
鏡とは（女性が自分の武器を点検、補修する道具の一つ）、  
顔とは（心の鏡で容易に壊れるもの）、  
涙とは（心の汗のこと）、  
兄弟とは（兄と弟のこと）、  
姉妹とは（姉と妹のこと）、  
夫婦とは（他人同士でお友達のこと）、  
空とは（無限の広がりをもつもの）、  
希望とは（自分で探し見つけるもの）、  
車とは（足腰を弱めるもの）、  
壊れた冷蔵庫とは（ただの箱のこと）、  
原稿用紙とは（無駄になる紙のこと）、  
酒を飲むとは（3次元の世界へ入ること）、  
生きるとは（与えられた時間を楽しむこと）、  
頭髮が薄くなること（無駄な抵抗を諦めること）、  
食事とは（生命を維持するもの）、  
宇宙とは（行ってみたい所）、  
畑とは（土と格闘する所）、

小説の印税とは（作者でなく作品がもらうご褒美のこと）、  
人間とは（考える輩である。パスカル）、  
眼鏡とは（視野を複眼にする道具の一つ）、  
カメラとは（時間を写し残す道具の一つ）、  
写真とは（想い出を留めるもの）、  
机とは（枕代わりになるもの）、  
鉛筆とは（使えばちびるもの）、  
万年筆とは（インクのあるうちだけ鉛筆代わりになるもの）、  
消しゴムとは（過去を消すためには役立たないもの）、  
定規とは（基準を測るもの）、  
選ぶとは（捨てること）、  
電車とは（電気で動く箱のこと）、  
カレンダーとは（見ると歳を実感させるもの）、  
日記とは（自叙伝のこと）、  
不可能の反対語とは（挑戦すること）、  
決心するとは（スタート地点に在ること）、  
政治家とは（嘘をついても平気でいられないと勤まらない職業のこと）、  
学者とは（時間を無駄にしても許される職業の人、霞を食って生きていきたい人）、  
人を恨むとは（心が相手に支配されること）、  
愛とは（実感したい空気）、  
死ぬとは（絶対に避けたいこと）、  
歩くとは（人間の始まり）、  
子供が親に嘘をつくとは（成長していることの証）、  
夫婦喧嘩とは（コミュニケーションの一つの方法）、  
電話とは（会話を強制する道具の一つ）、  
試験とは（受けたくないもの）、  
有能な作家とは（潮時のいいところで話を切り上げることのできる作家）。

### 総理大臣

― 自民党の総裁が国会答弁で陳謝します。  
内閣総理大臣、〇〇君。  
はご、 I am sorry.

### 選択音痴

妻 夫はひどい方向音痴なので、一緒にどこかへ旅行をするときは、いつも私がしっかりなくてはいけない、と思っただけで行動しています。  
夫 それで、俺はお前を掴まえてしまったのだ。

### 読後感

― 小学生の孫がお泊りした次の朝。  
新聞を読み終えた夫が言った。  
「今日は、特に読むべきところがなかった」



それを聞いた孫が聞き返した。  
「えっ？ 白紙??」

**感動は違っても**

心を打つ文章を読むと言葉が出てこない。  
下手くそな文章を読んでも言葉は出てこない。

**キリン**

キリンの首はなぜ長いのか？  
キリンの首は長くない。人間の首が極端に短いだけである。

キリンがやってみみたいスポーツは？  
バスケットボール。

キリンの唯一のライバルは？  
首長竜。

キリンが優越感を持つときは？  
肉食獣を上から目線で見下ろすとき。

キリンがもつとも困るときは？  
茶室へ入るとき。

キリンがもつとも好きな飲み物は？  
ビール。

キリンのライバルは？  
才能・芸芸にすぐれた子供・若者（麒麟児）。

**話は最後まで聞け！**

A君 冷蔵庫って、なぜ物を冷せるのか、知ってる？

J君 そりゃあ、エアコンと同じで庫内の熱い空気を外に出しているんだろ？

A君 それじゃあ、冷蔵庫の裏や上側か下側に扇風機のようなファンが取り付けられているのか？

J君 付いてんじゃないの？ そんなもの探したことないけど、ファンが回るようなモーター音がブーンってするじゃないか。

A君 違うね。冷媒という仕組みがあつて、気体を液体に変えて、それを冷却器に通して、その冷気をファンで庫内に送っているのさ。

J君 霊媒、霊気。分かったよ。要するに、霊媒師が隠れているってことだな。

**別れの言葉と物語**

あゝ、とうとう、

♪あさが来たのね さよならね 街へ出たならべつべつね♪(おんなの朝)  
と、私は声にならないため息をついた。

原因をつくつたのは私だけ、

♪今日で お別れね もう逢えない♪(今日でお別れ)  
の? と訊ね、こんな私でも、

♪遠き別れに耐えかねて♪(惜別の唄)  
やけっぱちに、

♪お別れするより 死にたいわ 女だから♪(なみだの操)  
とすがつてみた。

するとあなたは、

♪さよならは 別れの言葉じゃなくて 再び 逢うまでの 遠い約束♪(セーラー服と機関銃)  
だって言ったね。

あなたには本当の理由をしやべらないまま、

♪きまわず 別れたの♪(わたしの城下町)

よね。

これから先、1人で生きていくことを思うと苦しくて、歌のもんくじゃないけど、

♪別れる前にお金をちようだい♪(お金をちようだい)  
なんて言えなかった。

私は、あなたの居なくなった部屋で、

♪さよならと書いた手紙 テーブルの上に置い♪(さらば恋人)  
て出たけど、あの

♪涙で綴り終えた お別れの手紙♪(手紙)  
を読んでくれて、ありがとう。

気丈にしていたけれど、北国行きの夜行列車に乗るとき、多くの

♪見送る人たちに 別れ告げたら 涙が出たわ♪(瀬戸の花嫁)

お互いに納得のいく、

♪言葉さがし続けて 別れた2人♪(冬が来る前に)

ではなかったけど、私の何がいけなかったのか、

♪別れて しみじみ知らされた♪(花一輪)

わ。

それから月日は流れ、私は偶然、

♪別れた人に逢った 別れた渋谷で逢った 別れた時と同じ雨の夜♪(別れても好きな人)  
だった。

あのとき彼はホームの片隅にいて、私の目が、

♪また 逢う日まで 逢える時まで 別れのそのわけは話したくない♪(また逢う日まで)  
って語っていたこと、そして列車が動き始めたとき窓に顔を寄せた、

♪君の口びるが さようなら と動くことが♪(なごり雪)  
わかったよ、と変わらない優しさで声をかけてくれた。

時計の針が何ミリ動いたろうか、一瞬、目を伏せた彼は何かを決意したように、

♪さよなら さよなら さよなら もうすぐ 外は白い冬♪(さよなら)  
になる季節だねって、

♪笑って あばよ きどって♪(あばよ)

行ってしまった。

これでようやく、私は心が吹っ切れ、  
A Goodby my love ♪ (グッド・バイ・マイラブ)  
と一言呟き、さあ前進するぞという勇気が湧いてきた。

(付記。私は、このアイディアを通勤バスの中で思いついた。別れという歌詞が出ているかどうか、微かな声でハミングしながら、メモをとったことを覚えている。)

### 童謡と物語

ある日の夕食時にお父さんが休暇を利用して家族で、

「**故郷**へ行こう」

と言った。

そして、

「**飛行機**に乗って行く」

ことになった。

僕は出発の前の夜、寝付かれずお母さんに**子守唄**を歌ってもらった。  
なぜか**飛行機の夢**をみた。そして普段よりも**朝早く**目が覚めた。  
.....

着陸したのは**昼頃**で神戸空港といって**海**の上にあった。

そこから運転手のいない**電車**に乗ると、**灯台**や**漁船**が見えた。

陸に近づくと、岸壁に白と黒の羽をした鳥が群がっていた。

お父さんは**かもめの水兵さん**だ!と言って笑った。

この海を右に曲がって進むと**太平洋**へ出られるとも教えてくれた。

次に高速バスに乗って、その日のうちに、お父さんが**故郷の廃屋**だと謙遜している実家に着いた。  
家の後方には**青い山脈**が連なり、田んぼや畑のある田舎です。

この地方では、夕方のある時刻になるとお寺の**かね**がなる。  
その響きは僕の住む街にある**時計台の鐘**よりも大きい。

お父さんは、

「**朧月夜**になると山脈の下にある**みかんの花咲く丘**が幻想的に見えるんだ」と、自慢げに話した。

**翌朝**はどこから**水車**の音がして目が覚めた。

クー、クーという**山鳩**の鳴き声も聴こえた。

午後になって、**ふたりの子ども**たちが訪ねてきた。

「**あの子はたあれ**」

と聞くと、お父さんは姪っ子の子どもたちだと紹介してくれた。  
名前は**浦島太郎**さんと**ナコちゃん**です。

お父さんは太郎くんに、

「よう、**牛若丸**、でかくなつたなあ」

ナコちゃんに、

「**こんちにわ赤ちゃん**」

と声をかけた。

太郎くんは**かけっこ**が速く**お山の大将**のように元気だった。

ナコちゃんはまだふたあつで可愛い赤い靴をはいていたけど、ママのおひざが恋しいようであった。

僕たちは夕日が沈むまで若葉をつけた大きな栗の木の下で、ままごとや電車ごっこをした。

季節はさくらが終り、田植への準備をする頃になったそうです。

どおりで外の風はそよ風であった。

畑ではひばりはうたい、軒下では南から南からやってきた気の早い燕が巣を造り始めていた。

庭先には屋根よりも高い高い竿の先に鯉のぼりが初夏の光を受けて泳いでいた。

お父さんのお姉さん、つまり僕にとつての叔母さんが田舎の四季について色々としやべってくれた。

お正月になると梅に鶯が啼くそうです。

春は最初に水仙が咲き、うれしいひなまつりを過ぎると、さくら、赤や黄のチューリップが咲き

花のまわりで蜜蜂がぶんぶんぶんと羽音を立てるそうです。

そして、春の小川では本物のどじよっこふなっこを捕ることができそうです。

初夏には蛍が舞い、かえるの合唱でうるさくなるそうです。

真夏には花火を観賞し、秋には野菊や月見草が咲き、草むらからは虫のこえがし、空にはとんびがくると輪を描くのだそうです。

この田舎の冬にはあられは降るけど、雪は積もらないそうで、冬の夜にはきれいな冬の星座も観察できる、と聞きました。

.....

お父さんの心のふるさととお別れするとき、僕とお母さんは夏の思い出を作るのもいいけど、里の秋に行われる村祭を見てみたいねってナイショ話をした。

聞き耳を立てていたお父さんは、

「それじゃあ次回は汽車ポッポを乗り継いで来よう」

と宣言した。

太郎くんが、

「線路はどこかで途切れているよ」

って言ったので、僕は、

「線路は続くよどこまでも」

って答えた。

いよいよ惜時、僕はお世話になったみんなに、

「また必ず来るからまってね」

と手を何度も何度も振ってグッドバイした。

(付記。この物語は『日本の唱歌(上・中)』(講談社文庫)の目次と『朝日新聞』(2013年2月14日)に掲載された日本の童謡CD公告のタイトルを並べて作った。)

### 後悔しないためには

俺は東京に来て働き始めてから20年になる。すでに親父は他界し、田舎には年老いたお袋が一人で年金生活をしている。そのお袋にもずい分、長く逢っていない。

手紙を書くたびに、「時間があれば帰省するから」と、知らせるばかりであった。お袋からは「元気な姿、顔を早く見せておくれ」という返事が何通も届いていた。

先日も「お盆休みには必ず帰省し親父の墓参りをすると書き」投函した。お袋からは「お盆休みといわず、今すぐに帰って来てほしい」という懇願の手紙が届いた。

お袋の心を読めない俺はまた帰省が先に伸びることを書き投函しようとした。いつもより手が少し奥に入ったかもしれない。不思議なことに指先から手紙を離そうとしたが離れない。あつという間に俺は身体ごと手紙と一緒にポストの中へ吸い込まれてしまった。

どれくらい時間が過ぎたのだろうか、気がつくとも俺はお袋の遺影の前に座り、両の手を合わせていた。

### 釣果（ちょうか）

ある土曜日の朝、男は「夕飯は俺が持つて帰るから」と言い残して、電車で6駅先にある漁港へ釣りに出かけた。あいにく、風の強い日で波も高く、何も釣れない。他の釣り人も、諦め顔で竿をかたづけられている。陽が西に傾く頃、男も釣りをあきらめ、空っぽのクーラボックスを肩に掛け、駅へと急いだ。

途中、男は釣果のないことを舌打ちし、一杯引つけて帰ろう、と駅の並びにある飲み屋へと立ち寄った。カウンスターの隅に座りちびりちびりとビール・ジョッキを口に運ぶ。ふと顔を壁に向けると水槽が目に入る。近づいて見ると、立派なエビ4尾、タイ3匹、アジ2匹がいた。そのうち男はのろまな動きのタイを凝視する。タイは水槽の中層部と水面との間を往きつ戻りつしていた。そして男が顔を寄せる水槽の縁へのろのろと遊泳してきた。その淀んだ目ん玉は男をイラつかせた。

男はそつと後ろを振り返り薄暗い店内を見回した。どうやら客は衝立の向こうにあるテーブルの家族連れと自分だけであることを確認した。音といえば裏の厨房へ入った従業員と料理人のやりとりと、テーブル席にいる幼子の甲高い声が聞こえてくるだけだ。

顔を水槽に戻した男は鬼のような形相をして水に手を突っ込み、タイを2匹すばやく持ち上げ、足元においたクーラボックスへ隠し込んだ。その後、残りのビールを一気に飲み干し、勘定を済ませて急ぎ足でホームへと駆け込んだ。「しめしめこれで夕飯にありつけるぜ」と男は、背中に冷や汗を感じながらも、ほくそ笑み、電車が来る時刻を確かめるため腕時計を着けている左腕を鼻先へ上げた。

飲み屋では、事の次第に気づいた料理人が水槽内を覗き、舌打ちする。

「ちえ。また盗<sup>や</sup>られたか。猫に喰<sup>く</sup>わせるにやあ惜しいが、腹を壊<sup>や</sup>わさなければいいがな。ふん」

**追記。**これはバリー・ユアグロー（柴田元幸訳）（2013）『自然の法則』『一人の男が飛行機から飛び降りる』新潮文庫を参考に創作した。

### 黒い傘

真夏、雲ひとつない、汗々（かんかん）照りの昼下がり、私は徹夜明けのだるい身体、おもしろい顔とぼんやりした脳（あたま）のままバス停へと急いだ。

そこには黒いバッグを持った一人の男が立っていた。このくそ暑いのに上下とも黒のスーツを着て。

「雨が降っても、草と木と月が……だろう。ぶつぶつ……ぼそぼそ、雨が淀んで水溜りの空が……だろう。ぼそぼそ……ぶつぶつ……」

「何の念仏だ。何のまじない？」

聞き耳を立てようと微かに顔を動かすとその視線が衝突（あ）ってしまい身動きがとれなくなつた。蜥蜴とかけの目のようだ、と私は思った。温度というものをまるで感じさせない、感情的な要素がゼロの目であった。

「しまった！ まずい！」

私に気づいた男はぎよとした表情とともに、ほっとしたような笑みを浮かべた。

そして唐突に「雨が降ると、傘が必要ですね。お持ちです？」と声をかけてきた。

この空のどこに雨が降るといのか、怪訝に思ったが、

「はあ、でも用心のために携帯傘を持ち歩いていきますから」

と答えると、男は自分も持っているが、その傘が何色であるか当ててみる、と言う。

なぜ、答えなければならぬの？ やっかいだな、と思いつつ

「分かりませんね」

と素っ気なく返事した。

「じゃあ、ノーヒントのクイズを出します。四択です。緑、白、黒、青、さあ、どれでしょう？

チャンスは二回きりです」

なぜなぜ、こんなことに付き合わなければならないのか・・・とぶっきらぼうに、

「白ですかあ」

と言い放った。

「ギャハハハ！ 見事にはずれ！ ファイナルアンサー！」

「何い！」

間髪を入れず、私は吐き捨てるように怒りを込めて叫んだ。

「じゃあ、黒でしょう？」

その瞬間、男はにやりと口元を歪め、まばゆいばかりの太陽光線を反射したかとおもうと、鬼のような形相を浮かべて

「ピ〜ンピ〜ンピ〜ンポ〜〜ン」

と叫んで虚空へ吸い込まれた。

私は一瞬、強烈なめまいを感じ、腰を抜かしそうになった。自分がどこにいるのかさえわからなかった。

ブーブー！ 短いクラクションが鳴った。ふと我に返ると、母親に手を引かれ、手にプール遊具を持った子供が近づき通りすぎた。母親は見えてはいけないものを見なかったことにするよう困惑した眼を泳がせてから、驚きと怯えのあまり思いつめた顔で空間の一点をじっと凝視したまま歩（すす）んだ。子供は身をよじって振り返りけらけらと笑い声をたてた。

私はわななく唇を噛みしめ、右を、そして左を眺め一心に、

「私は・・・私は・・・怪しい・・・者じゃ・・・ない」

と声にならない声を発した。

到着したバスに乗り込もうとステップに右足をかけると頭の上前方に進入を拒むものがある。上目遣いに見ると、私は黒い傘をさしている自分に気がついた。

### 本末転倒

婚活（結婚活動）という言葉が流行るほど、若者たちには結婚のしにくい社会や時代になって

いる。婚期を逃す理由の一つには豊かな生活に慣れてしまい親離れが出来ない、あるいは親離れが遅れていることもあるようだ。そのため若い当人たちよりも親の方がやつきになって娘や息子のパートナー探しをしている。結婚紹介所のみならず男女を結びつけるイベントにはとりわけ母親の姿が目立つほど増えてきた。

今日もある母親と娘が紹介された若い男性とテーブルを挟んでお見合いならぬ茶話会をしていた。

包容力のある優しい声で母親は、

「実は私はバツイチでして、この娘を女手一つで育てましたのよ」と切り出します。

その母親を見つめ男性が幾つか質問をします。

「ご趣味は……？ 得意な料理は……？」

母親が答えるたびに男性は何かを訴えるような理解して欲しいような視線を返します。母親はその視線を避けるように、娘に促し学歴、趣味、得意な料理などを答えさせます。何が不服なのか、娘がしゃべる間も男性の視線は母親から離れません。この娘にこの母親？ という疑念のこもったとも受け取られかねない視線です。

茶話会がお開きになる寸前、男性は母親の瞳をしっかりと捉えて許しを請うよう問いかけます。「結婚を前提にお付き合いさせてください。今度は僕がきつと必ず幸せにします」

この言葉に娘はうつむき頬を緩め、ただただ顔を紅潮させるばかりでした。がしかし、母親はこわばった表情を崩すことはなかった。なぜなら、男性の視線は母親に釘付けだったからです。

(了)